



学校だより

とき・あかし錦城

2022年(令和4年)

2月7日(第82号)

明石市立錦城中学校

足あとを振り返ってみます

校長 谷郷昌弘

3月が近づいてきました。少し気が早いのですが、この一年の振り返りをしてみます。

4月。初々しい新1年生の入学で全校生徒がそろいました。教職員一同、この1年は「心のケア」を柱にして、どの活動においても生徒のみなさんの心に寄り添った教育活動を進めていこうと誓いました。

5月。初夏を迎えて学校も軌道に乗ったころ。タブレットの活用も日常の風景となりました。と言うより、生徒の皆さんのほうが操作をよく理解していましたね。

6月。修学旅行は延期。行先も変更という状態。残念ではありますが、頭を切り替えていくしかありませんでした。でも、総体できてよかったー。

7月。感染状況の悪化に伴い、緊急事態宣言の発出。夏休みは例年の日数に近くなったものの、感染防止に一層神経を使う日々でした。

8月。例年通りの猛暑続き。体育大会のダンスリーダーがんばりました。でも、熱中症予防、保護者の観覧など、総合的に判断し、体育大会は10月に延期となりました。

9月。やや落ち着いて学習に専念できる期間となりました。無事、緊急事態宣言も解除。

10月。中間考査、体育大会、文化発表会、修学旅行。なんという忙しさ。ほんとうに大変でした。なんとか乗り切ることができましたね。その中でも、生徒のみなさんの工夫と努力で、行事も感動的かつ心に残るものとなりました。

11月。そろそろ寒さが身に浸みだす頃です。期末考査は、3年生のみなさんにとってはほんとうに正念場でした。

12月。震える寒さの中、進路決定の山場でした。また、第76期生徒会長選挙があり、いよいよ学校のリーダーがバトンタッチする準備に入りました。

1月。新型コロナ感染防止一色の中、進路選択の過程は粛々と進んでいきます。ここまで来れば、もうジタバタしても始まりません。覚悟を決めてひたすら努力のみ。

2月。いよいよ入試本番です。1,2年生のみなさん。ずっと先の話ではありません。将来の自分の姿を思い描いて、そのために今何をすべきか、具体的に考えてください。興味を持って自ら調べてください。そして、できることを一つでも二つでも始めるのです。

最後に、この一年を「後悔」の念で終えようとしているあなた。まだまだ勝負は終わっていません。いや、むしろこれから勝負です。運不運は人生につきものですが、この世は「感謝する気持ち」を忘れず、「小さな努力」を重ねた人に幸運が寄ってくるようにできています。あなたに運をもたらすのは神様でも仏様でもありません。すべて「人」がもたらすものです。「感謝」して、「努力」するあなたを「人」はずっと見ています。そして、あなたが気づかないところで、見えない力で助けてくれる。これを本当の「運」と言うのですよ。

いくら頑張っても報われないと思っているあなたへ

去年の卒業文集にも書いた内容なので、読んだ人もあるかもしれませんが、私にとって忘れることのないエピソードをここでしつこく書いてみます。

10年以上前のことです。当時私はある中学校の水泳部の顧問でした。部員の中に「Y」君という男子生徒がいて、彼は彼なりに練習をまじめに続けていました。

ある日、「Y」君が言うのです。

「先生、ぼくはちょっとでも速くなろうと思って、こんなに毎日練習を頑張っているのに、この何カ月、ちっともタイムが伸びません。もう努力しても無駄なんじゃないかと思ってしまいます。どうして結果が出ないんでしょう。」

そのときに答えたことは、

「あのな、みんな今日10努力したら明日10速くなる。明日10努力したらあさって10速くなると思とるやろ?」「実際はそんなもんとちゃうねん。今日10、明日も10、あさっても10頑張っても何にも変わらへん。それでもあきらめんと続けとったらな、あるとき突然、50も100も力が出る時があるねん。それが試合のときやったりするねん。」「うそやない。先生自身の実感や。保障する。」

その後、彼はひとかどの選手になってくれました。数年後、「Y」君がプールに訪ねてきて、

「あのときの先生の言葉を信じて、がんばってよかったと思ってます。」と言われ、非常にうれしかったことを思い出します。

結果は思いがけず突然に現れるものです。人生、投げてはいけません。